

1. 概要：

- ・初参加3名を含む総勢11名で「希望とは何か」という問いを掲げ、主に、希望とは何か、希望の背景にある心情的なものとは何かについて対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役から、コロナ禍の状況だからこそ考えたいテーマとして希望を思い付いたことを説明し、今日の問い「希望とは何か？」を提起した。

(1) 希望とは何か？その1

- ・仏教では「諦めることが善」とされていて、そういう意味からは希望を持つことはあまり善いことではない。希望を捨てることはできないが、初めから持たないことができればその方がよいかもしれない。
- ・類似の概念で願望や要望という言葉がある。「コーヒーが飲みたい」というように具体的な望みは願望や要望と言えるが、希望は、もう少しぼやっとしている。「卒業生は希望に満ち溢れている」という表現をするとき、未来が明るいという意味だが、はっきりはしていない。
- ・「コーヒーが飲みたい」という具体的な願望も希望に含めることはできるが、希望は、少し抽象的で、時間的にも空間的にも射程が長い。時間的に射程が長いとは、未来に延びる時間軸において、より長い範囲という意味であり、空間的に射程が長いとは、内容が定まらず抽象度が高いという意味である。
- ・希望はかすかな望みである。「コーヒーが飲みたい」という望みも現社会であれば当たり前かもしれないが、戦争中で物資が手に入り難いという状況下でその入手できる確率が低ければ希望と呼べる。だから感情的な観点から、細くて遠くて小さく見えるものである。
- ・自分の意思だけではどうにもならない状況下で不確定な未来に当たっての望みが希望ではないか。自分の意思一つで今ならプリンは手に入るがそういう望みを希望とは呼べない。

(2) 希望の具体例は？

- ・希望は毎日朝が来ることである。大勢の人から見れば当たり前のことであるが、夜に寝て起きたときに朝が来ることは数少ない信じられることであり、自分にとっての希望である。
- ・希望は、特定の大学に入りたいという望みであった。これは、希望でも願望でもあった。
- ・野球観戦をしたいことが希望である。
- ・希望は生死に関わる重大な事柄に直結する場合もあるが、「ワクチン（または特効薬）Aは製品化の希望がある」が、「ワクチンBは重大な欠陥が見つかり製品化は絶望である」というように、そうでない場合もある。また、「石原さとみと結婚したいという希望があったが、それは絶望に変わった」とも言える。

(3) 希望とは何か？その2

- ・希望を考えると、悪いことをしたいという望みは希望とは言えない。
- ・「世の中が良くなって欲しい」は希望だが、「世の中を良くしたい」は願望である。
- ・希望は生きることと直結している。だから反対に、絶望の状態では生きていくことが難しくなる。
- ・癌に罹ると、生きる確率が希望になる。希望は苦しい立場の人のための言葉で、不自由なく生きている人は使うべきではない。
- ・SF小説がなぜ好きか理由を考えると、SF小説では未来が描かれていて、悲惨な未来である場合もあるが、それでも主人公達が生きていく場面が描かれていて、読後に前向きな気持ちと共に希望が残るからだと思う。

(4) 希望の背景にある心情的なものは何か？

- ・言葉には、客観的な表現と心情的な表現がある。永久と永遠という二つの言葉がある。永久は客観的で「永久磁石」、永遠は心情的で「永遠の愛」のように使う。これらは交換して使えない。希望は心情的な表現。「あなたには希望がある」という場合、そこにどういう意味があるか？→大学受験で「模試判定C」の場合に「あなたには希望がある」とは、努力次第で合格の可能性はあるという意味である。
- ・希望とは「肯定的な未来を期待できる」場合の望みである。自分には希望があまりなかったが、YouTubeの評価で良い評価を得られたときに希望を感じることができた。
- ・希望は個人による判断ではなく、他者の願望の集まりではないか。例えば、「コロナ禍にあってZoomは哲学カフェの希望である」というように価値判断が集団による場合である。
- ・肯定的な未来を期待できる背景には、その人が信じている何かが関わっている。だから、肯定的な未来を期待できる場合にはそこにグラデーションがあるが、期待できないときは絶望となり、わずかでも期待できるときにそれを強調する表現が希望である。
- ・ライブに行くことが希望である場合を考えると、コロナ禍の現在であれば3密を避けてとなるが、その場合の希望は、スタンディングで思い切り密な状態でパフォーマーと一体化となる感覚で、生きているという実感に近いかもしれないというニュアンスが希望には含まれている。
- ・(フランクル著の)「夜と霧」にあったと思うが、期待→絶望→希望の順で抱く望みである。クリスマスに収容所を出られるかもしれないというかすかな希望を持ち期待したが、それを過ぎて出られないと絶望となり、その後でまだやがて湧き上がるものが希望である。このとき希望を見出せるかどうかは、その人が持つ価値観や信仰が関係している。
- ・「豚骨ラーメンを食べたい」という願望もその人がそのときに置かれた状況下での希少性やその願望に対する切実さ・重大性があれば、その価値観や信仰を持つその人にとっては希望と呼ぶことができる。

→希望とは、その人の価値観や信仰において希少性や重大性を感じられる肯定的な未来への望みである。

(5) 希望を持った方が良いか？必要か？

- ・持った方がよいかわりも必要かどうか。一時期に希望はなくてもよいと思ったがその裡に生きてなくてよいと思うようになってそこに留まることができず、必要であった。だから、不安なときは必要。
- ・学生時代に学校に行くのが辛かったが、その場合には希望が要る。絶望の状態で生きるのは大変で、心が楽ではない。現実を変えるためには、希望を持って何をすべきかを考えることが大事である。

3. まとめ

- ・希望とは、「その人の価値観や信仰等を背景に、希少性や重大性を感じられる肯定的な未来への望み」という一つの理解が得られた。それが集団や社会にとってどう見えるかを掘り下げたかったが時間切れとなってしまった。読者や参加者には各自で思考を掘り下げてもらいたい。